

経営理念	保育目標	【あったか笑顔で、すくすくやすっ子】					
	経営目標	【子ども一人一人を大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所】					
	〈子ども像〉	○友達と元気に遊べる子ども ○自分の思いを持ち、素直に出せる子ども ○やさしく思いやりのある子ども ○自分のことを自分でしようとする子ども					
	〈保育所像〉	○一人一人の子どもが大切にされ、楽しく安心して生活できる保育所 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ保育所 ○保護者や地域から信頼される保育所 ○地域の子育てを支援する保育所					
	〈保育士像〉	○子どもに寄り添い、子どもの最善の利益を考える保育士 ○意欲を育む環境を考える保育士 ○保護者と協力し、子どものより良い育ちを考える保育士 ○仲間と創造し協働する保育士 ○豊かな人間性と専門性の向上に努める保育士					
中期経営目標		短 期 経 営 目 標（評価項目）	自 己 評 価		保育所関係者評価員		改善策等
			達 成 状 況	評価	考 察	評価	
保育・教育活動の充実	○ 保育指針に沿って乳幼児の発達に即した保育を展開し望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う。	① 保育所保育指針を理解し、園の経営計画や保育目標等について共通認識のもとに保育を実践する。	日々の保育を振り返り、時には学年を超えて保育者同士が話し合いを行い、発達や興味関心に応じた環境の構成を考え保育の展開につなげることが多かった。具体的に週案の作成をすることで、半数以上の子どもが用意した環境に関心をもって繰り返し遊ぶようになっていく。話し合いはできたが週案作成が週初めになったこともあり見直しをもって作成する時間の確保が必要である。	B	話し合いが活発に行われることで共通認識を深めることができている。時間確保も大事だが負担軽減も行いながら保育の充実をさせてほしい。	B	保育の話し合いや記録、反省を週案や保育に反映できるよう見直しをもって計画していく。共通認識をもって保育を実践していくために午睡時間の活用や代表者のみでの会など工夫して時間を確保していく。
		② 一人一人の乳幼児の発達や特性を理解し、心に寄り添った保育を実践する。	園庭の環境構成を3か月に1回、0.1歳児(乳児部)と2.3歳児(幼児部)に分かれて大きな見直しを行うことができた。子どもの姿に応じた工夫や再構成はその都度話し合ってきたが、発達を促したり特性を理解した保育の実践への資質向上の取組は引き続き必要である。	B	定期的に話し合い見直しを重ねることで気づき改善につながった。こども園に向けて0～5歳児の子ども達の発達や遊びの幅を広げる話し合いを期待したい。	B	園庭環境を整えながら、体を動かして遊ぶことを楽しめるよう、話し合いを重ね取り組んでいく。
		③ 生活や遊びを通して子どもが興味関心をもって食に関わる体験ができる保育を展開する。	2.3歳児は自分達が種苗を植えたことで栽培物の様子や変化に興味深く観察し、収穫した野菜は苦手なものでも食べようとする子どもが増えた。0.1歳児は収穫する時に見学したり、給食に入っていることを伝えることで嬉しそうな姿が見られた。芋畑やプランター栽培は管理不足のため不作となってしまうが、地域の方のご厚意で芋ほり体験ができた。栽培計画の活用や栽培に関する知識や技術が十分でなかった。	C	子どもが興味関心をもつことが目標であるので不作は意識しなくてよいのではないかと。地域の力を借りたことが評価できるので、今後もぜひ続けてほしい。	B	地域の方や幼稚園と一緒に栽培に関わることができるよう計画的に進める。また、栽培に関する知識・技術の習得に努める。
職員の資質向上や運営	○ 職務分担が適切に機能し、子どもたちのために職員が互いに協働する保育所を構築する。	① 職員が報告・連絡・相談に努め、協力体制のなか保育にあたる。	月案検討会や毎日の終礼だけでなく、職員同士が意識して声をかけ合い、子どもや保護者の様子を共有することで対応を共に考え実践につなげることができた。保育に関する相談や悩みが話せるようになり、連携しながら保育することにつながった。パート職員との情報共有は昨年以上に努力したが、パート部会は年間1回の実施にとどまった。	B	家庭からの反応を見ると報告・連絡・相談がきちんとされていることが分かり、子ども保護者の安心につながっている。パート部会は情報共有と対応ができていれば回数にこだわらなくてよい。	B	クラス内での情報共有を口頭、引継ぎノート、ボード記入などで確実にし、協力体制の中、保育にあたる。パート部会は学期に1回実施する。
		② 保健計画や感染症対策に則り、安全管理・衛生管理を適正に行う。	感染対策については、毎日の玩具の消毒、掃除や換気、子どもの体調の変化をこまめにチェックするなど意識して取り組んだ。子ども達にも手洗いうがいが丁寧に見えるよう表示を活用して関わってきたことで身についてきている。また、個人用のおしぼりやタオルをウェットティッシュやペーパータオルに替えることで衛生管理が徹底できた。	A	感染対策や衛生管理について十分取組ができている。特に手洗いうがいに関しては生活習慣として身に付けることで感染予防につながるが良い。	A	引き続き手洗いの大切さを知らせたり、一緒に行ったりすることで、清潔にすることを身に付けていく。感染症に関して家庭への理解が十分でないため工夫して啓発に取り組む。
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	① 保護者の実情や要望を把握し、子どもの育ちを共有しながら、子育て支援・保護者支援を行う。	家庭支援・保護者支援は園全体で共有し考え進めることができた。登降所時や連絡帳、クラス懇談個人面談などの機会を捉えて保護者の悩みや育児の大変さ、喜びを共有することができた。送迎時ではゆっくり話ができないため、連絡帳でのやり取りが中心になりがちな保護者は8割であるが、随時面談を行うことはできなかった。	B	保護者アンケートの結果より、「子どもの姿を分かりやすく伝えている」「相談できる」などの項目が100%肯定評価であることから、保護者と職員の信頼関係が構築されている事が読み取れる。	A	家庭背景や保護者の状態把握が決めつけや思い込みにならないように、多面的に考えたり適切な支援が行えるよう研修参加や事例研を行うことで保育者のスキルアップを目指す。
		② 保護者や地域、保幼小中との連携を図りながら、防災活動・安全対策を進める。	1学期に保護者や中学生の協力を得て高架下倉庫に備蓄品の運搬ができた。コロナ禍で3回目の合同避難訓練は行うことができなかったが、町P連を通じて課題を共に考える機会ができた。園内では毎月様々な想定避難訓練を実施し事前事後の話し合いで共有、早く避難ができるように避難車を置く向きが改善ができた。改めて職員の動きの課題が分かった。今後、細かな動きのシュミレーションでの訓練が必要である。避難バックの内容物を定期的に点検することや地域と共に取り組むことが引き続き来年度への課題である。	B	中学生の力を借りたり町P連を通じて行政とともに課題を共有できたことが良かった。今後も地域、保護者、行政とともに継続した取り組みをお願いしたい。	B	幼小中や地域との連携をもちながら、引き続き様々な想定での訓練を実施し、事後には必ず検証を行い改善に努める。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要